

平成28年度
学校自己評価総括表
最終評価 まとめ

努力目標・評価項目・具体的方策・評価基準・総括評価

平成29年2月23日（木）

長崎県立北松西高等学校

平成28年度努力目標

- ◆ 各教科とキャリア教育との関連性を正しく理解し、教科における活動を実践する。
- ◆ 本年度の方向性「学力の向上」「生活力の向上」「家庭・地域との連携」を柱に、小中高一貫教育を推進する。

本年度の努力目標

(1) 学力の充実と向上を図る。

- ① 生徒一人ひとりの学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める。
- ② 毎日の家庭学習2時間以上を基本とし、進路実現を図るための学力を身につけさせる。

(2) 基本的生活習慣の確立を図り、規範意識の高揚に努める。

- ① きちんとしたあいさつや 服装、身だしなみなど、学校生活でのルールや時間を守る指導を徹底する。
- ② 生徒一人ひとりを正しく理解し、心と心が通じ合った、いじめのない明るい学校づくりに努める。

(3) 進路指導の充実を図る。

- ① 3年間の進路指導計画を整理し、体系的・組織的な指導を行う。
- ② 生徒一人ひとりの学力を分析し、学習のあり方など、個々の生徒に応じたきめ細かな進路指導を実践する。

(4) 小中高一貫教育の内容の充実を図る。

- ① 小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める。
- ② 地域保護者との連携を強化し、郷土を愛し、郷土に貢献しようとする心を育てる。

※ 評価について（4段階評価で実施）

- 4：十分達成している
- 3：おおむね達成している
- 2：どちらかというと達成されていない
- 1：ほとんど達成されていない

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 | | |
|-----------------|---------------------|--|---|---|---|----|----|--|--|--|---|
| | | | | | | | | | | | |
| 学校の組織的経営力の充実と向上 | 教務部 | 学校運営の円滑化 | 各種行事等における早期着手と各分掌・学年との連携 | 教職員の仕事が円滑に進むよう教務の計画を事前に示す。 | 教務の計画を事前に示し、役割が明確に伝わる要項が提示できれば「3」 1ヶ月前に提示できれば「4」 | 4 | 4 | B | ①実施要項は1ヶ月前までには出すことができた。部員の仕事分担の詳細の確認に関しては、特に後半特別時間割期間になってから教務部会を開く時間が取れず、確認が取れない面があった。 ②消耗品やコピー用紙の補充は適宜なされていた。 | | |
| | | 3年間を見通した教育活動の実践と校内研修の推進 | 生徒の進路目標や個の適正に応じた教育課程の研究・検証と 職員の研修の推進を図る | 目標にあった特色ある教育課程を編成する。 校内研修の充実と積極的な参加を促す。 | 年間計画通り教育課程委員会が開催し、現行の教育課程の問題点の改善や検証ができれば「3」 年度当初に年間計画が示せれば「3」 計画の8割が実施でき、かつ各々の研修の参加が9割以上であれば「4」 | 3 | 3 | | | B | ①新教育課程実施にスムーズに移れるように、教務部中心に準備を進めていく必要がある。 ②校内研修は計画的に実施できた。今年度は進路関係の研修も加わり、より充実したものとなった。新教育課程実施を見据えた研修も積極的に取り入れていきたい。 |
| | | 地域に根ざした学校づくりに努める。 | 広報活動を充実させ、地域や保護者との連携を図る。 | 「北松西高だより」の発行。 授業参観の実施。 webページの定期的な更新。 | 年5回発行すれば「3」（それ以上発行すれば4） ウイークスおよび公開授業を実施し、各々10名以上の参観者があれば「3」（15名以上の参加で4） 年5回更新すれば「3」（それ以上更新すれば4） | 4 | 4 | B | ①北松西だよりは毎月発行することができた。 ②研究授業ウィークスでは各授業の参加者はすべて10名を超えた。 ②Webページの更新は年間61回（1月末現在）、月平均5.5回行い、1年間を通して精力的に情報発信を行った。 | | |
| | 総合的な学習の時間の充実 | キャリア教育を柱とし、3カ年を見通した総合的な学習の時間の運営と内容の研究。 | キャリア教育を柱とした総合的な学習の時間の年間計画を立てる。 総合的な学習の時間を運営する。 今年度の反省をし、次年度の計画を立てる。 | 学習内容のバランス・担当人数のバランス・担当時間などに配慮して年間計画が立てられれば「3」 円滑に実施できるように、実施計画を調整できれば、「3」 担当者に今年度の反省をしてもらい、それを元に次年度の計画を年度末の職員会議に提案できれば「3」 | 3 | 3 | B | | | ・卒業レポート発表では、中学生を迎えるなど新たな試みを行った。今後さらに内容を充実させていきたい。 ・具体的方策3について、来年度の計画は準備中 | |
| | 保健部 | 生徒及び教職員の健康の保持増進 | 生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、自分の健康に関心を持たせる。 | 定期健康診断を実施し、治療及び予防に努める。 健康診断・保健指導を実施し、適切な指導・援助を行なう。 健康の保持増進を図るため、出来るだけ多くの情報提供を行なう。 | 受診勧告書を発行し、受診後は報告書を提出させる。全員の提出があれば「4」 計画どおり実施できれば「3」、受診後、完治までの指導・支援ができれば「4」 毎月・臨時の情報提供を行なったら「3」、計画どおり発行出来れば「4」 | 3 | | 3 | B | | ①健康診断における事後措置は、対象者へ受診勧告通知を行った。特に歯科に関しては検診後、夏季休業前、冬季休業前と3回にわたり通知を行った。しかし、受診者が増えてない。そのため、個別指導をより充実させていきたい。 ②各部活動で体重測定や身体作りを行っていると思うので、体組成計の借用を今年度中に行い、改善に向けて指導を続けていきたい。 |
| | | 施設・設備の健康・安全対策 | 生活・学習環境の安全・衛生・美化活動に努める。 | 保健部・学校薬剤師による環境安全点検（校舎内外）、安全衛生点検〔年3回〕を実施し、問題点があれば、速やかな対策を講じる。 掃除の徹底。 | 点検を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」 清掃活動を計画どおり実施したら「3」、問題点に対して速やかな対応策を講じた場合「4」 | 3 | 3 | B | | ①現段階で1学期期末考査、2学期期末考査時に実施した。学年末考査時にも点検を行い、事務部と相談し改善に努めていきたい。 | |
| | | 多様な教育活動に対応した学校事務の推進 | 学校の窓口としての適切な対応 | 外部との接点、情報の出入口としての窓口業務の重要性を認識し、職員室との連携を密にしつつ、より適切で迅速な対応に努める。 | 適切な来客・電話対応。 挨拶、用件を聞く、担当者への引き継ぎや案内を行うなど標準的な対応がスムーズにできれば「3」 職員室との連携と適切な対応。 内部の接点として職員室との連携を意識した、適切で迅速な対応ができれば「3」 | 3 | 3 | | | | |
| | 適正で迅速な会計処理と予算の効果的執行 | 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努める。 | 適正な会計処理。 予算の効果的執行。 | 規則等に則った適正で迅速な会計処理ができれば「3」 教育活動の理解に基づく効果的執行を教員からの要望にきちんと対応できれば「3」 | 3 | 3 | B | 法令等を遵守し、適正で迅速な会計処理に努めるとともに、教育活動の理解に基づいた予算の効果的執行に努めることができた。 | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 | |
|-------------------------|-----------------|---|--|--|---|----|----|---|---|---|
| 多様な教育活動に対応した 学校事務の推進 | 事務室 | 施設・設備の安全管理及び整備・充実 | ・学校生活における生徒の活動・行動についての状況把握と理解に基づき、実態に即した、より効果的な施設・設備の安全管理に努める。 ・教育活動の実態に基づき、より適正な施設・設備の整備に努めるとともに、将来を展望した長期計画の策定により、よりよい教育環境の整備・充実を目指す。 | 校内巡視による実態把握。 突発的な破損・故障への迅速な対応。 整備計画の策定。 | 校内巡視による安全確認ができていれば 「3」 直ちに現場を確認し、対応策していれば 「3」 長・短期的視点からの整備計画策定の何らかの準備をしていれば 「3」 | 3 | 3 | B | 限られた予算の中で、学校生活の中での生徒の安全を第一に考え、適正な施設・設備の整備に努めた。また、維持補修計画・学校施設整備計画により、学校施設の短期・長期の施設整備計画を県へ要望した。 | |
| | | 基礎学力の定着と徹底 | 基礎学力の徹底を図るとともに、学習のつまずきへの支援対策を講じる。 | ① 朝学タイムにおける5分前着席の状況や取組は回を重ねるにつれて改善された。高校における西高朝学タイムの位置づけをより明確にし、周知徹底を図る必要がある。② 調査前補充指導は前期に引き続き計画的に行うことができ、その効果も概ね高かった。 | 円滑に実施できれば、「3」 調査前の指導計画を立て、実施できれば、「3」 | 3 | 3 | | | B |
| 学力の充実と向上 | 第1学年 | 学力の充実と進路指導の徹底 | 学力の充実と進路指導の徹底を通して、自己認識を深めさせ、各人の進路設計を確立させる。 | 家庭学習の習慣化を図る。 | 毎日2時間半以上の家庭学習時間を確保する。学習と生活の記録調査を毎週行い、1日の平均学習時間が2時間半以上の者が60%いれば「3」とする。 | 2 | 2 | C | 学習においては、毎日2時間半の目標を達成できた生徒は半数であったが、残りの半数も毎日2時間は学習しており、学習習慣は身についたようである。次年度は、毎日3時間半学習するというを設定し、それを全員達成できるよう、より具体的な進路指導を行うことで生徒たちの学習意欲を高めていきたい。 | |
| | | | | 総合的な学習の時間を活用し、進路に対する意識を高めさせる。 | 総合的な学習の時間を通して、職業調べや学部調べなどをし、進路に対する意識を高める。予定通り実施すれば「3」とする。 | 3 | 3 | | | |
| | | | | 個人面談を充実させる。 | 個人面談を学期毎に2回以上、家庭訪問を年間1回実施する。予定通り実施すれば「3」とする。 | 3 | 3 | | | |
| | 第2学年 | 学力の充実と進路指導の徹底 | 学力の充実と向上を図る進路指導の徹底を通して、自己認識を高めさせ、各人の進路設計を確立する。 | 家庭学習の充実 | 毎日3時間以上の家庭学習時間を確保する。学習と生活の記録調査を毎週行い、60%いれば「3」 | 2 | 2 | | | C |
| | | | | 総合的な学習の時間の活用 | 総合的な学習の時間を通して進路意識を高める。予定通り実施すれば「3」 | 3 | 3 | | | |
| | 第3学年 | 学習習慣の定着 | 学力の充実を図り、各自の進路希望の実現に向けて努力させる。 | 添削指導や補充指導を通して、個々の能力に応じた指導を行う。 | 個々の能力に応じた添削指導や補充指導を実施できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」 | 3 | 3 | | | B |
| 家庭学習の習慣化を図る。 | | | | 8割以上の生徒が、毎日一定時間の家庭学習の習慣がついているなら「3」 | 3 | 3 | | | | |
| 国語科 | 学力向上の為に学習指導法の研究 | 進路実現の為に必要な学力向上の為に、効果的な学習指導法の研究を行い、実践する。 | 授業計画について検討し、情報交換をする。 | 教科担当者間で情報交換を行い、学力面での課題を確認し、効果的な指導につなげる。月に2回以上行えた場合「3」月に4回以上行えた場合「4」 | 4 | 4 | C | 習熟度別クラスにおいて、適切な難易度の課題に取り組ませることができるようになっている。授業内容や指導法についても定期的に情報交換を行い、指導に活かすことが出来ている。授業参観の頻度は少ないままであったので、来年度は積極的に授業参観をしていきたい。 | | |
| | | | 互いに授業を参観し合い、意見交換を行うことで指導力を向上させる。 | 授業参観を通して自身の授業実践に活かす。1学期に1回以上行えた場合「3」1学期に2回以上行えた場合「4」 | 2 | 2 | | | | |
| | | | 個に応じた指導の実践 | 生徒の志望・学力に応じた指導を行う 具体的な方策を2つ以上実施した場合「3」 具体的な方策を3つ以上実施した場合「4」 | 3 | 3 | | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 |
|---------------------------|-------|--|--|--|--|----|----|----|---|
| 学力の充実と向上 | 国語科 | 「書く力」の育成 | 様々な種類の文章を書くための知識・記述力を身につけさせる。 | 記述力養成のための指導を授業の中に取り入れる。 | 国語総合・現代文・古典・国語表現すべての授業において定期的に記述力養成につながる指導を行う。全ての科目において期ごとに1回以上行えたら「3」 全ての科目において期ごとに2回以上行えたら「4」 | 2 | 3 | B | 古典においては記述力養成につながる指導が行えていない。文法や単語等、基礎的なところを身につけさせつつ、記述力養成ができるような問いを簡単なものから取り入れていきたい。言語活動を取り入れた「書くこと」の指導というテーマのもと実践を行い、書くことへの意欲向上や記述力向上について一定の成果をあげることができた。 |
| | | | | 「少年の主張」を書かせる | 夏季休業中の課題とする「少年の主張」の指導において、事前・事後指導を行い、記述力向上につなげる。推敲によって内容が深まった者が7割いれば「3」 推敲によって内容が深まった者が9割いれば「4」 | 1 | 3 | | |
| | | | | 語彙力の養成 | 小テストを通して、書く上で必要な生徒の語彙力を向上させる。小テストを週1回以上実施できたら「3」 小テストを週2回以上実施できたら「4」 | 4 | 4 | | |
| | 地歴科 | 学習指導法の工夫と改善 | 毎回の授業で生徒の理解度を確認し、授業力の向上に努める。 | 小テストの実施 | 毎回小テストを実施し、平均点が6割を越えれば3 | 3 | 3 | B | 1年間を通して授業を行ってきた結果、クラスの特長を考慮した上で、小テストだけでなく小テストにかわる復習や確認の取り組みを模索しなければならないと感じた。来年度は、生徒が理解するためにより良い方法を取り入れることを目指す。 |
| | | | | 公開授業を行い授業力向上に努める。 | 公開授業ウィークス等を利用し、授業力向上に努める。年2回以上実施できれば4 | 1 | 4 | | |
| | 数学科 | 数学への関心・意欲を高める | 自主的に家庭学習に取り組ませる。 | 生徒の実情に合った課題を配布し、家庭学習の習慣をつける。 | 9割の生徒が取り組んだら、「3」 | 3 | 3 | B | ①課題の取組は良好であり、家庭学習の習慣は着いている。しかし、自らプラスアルファの課題を見つけ取り組むまでには至っていない。 ②定期考査に対しては、意欲的に学習できている。しかし、基本的な事項の定着が全員なされたとは言えない。 |
| | | | | 定期考査前にしっかりと勉強させ、それぞれの目標以上の点数を取らせる。 | ほとんどの生徒が目標以上の点数を取れたら、「3」 | 3 | 3 | | |
| | | 基本的な計算技術の習得と習熟および図形の基本的性質の理解 | 四則演算、整式計算、様々な方程式を解けるようになる。角度・立体の体積や表面積をもとめることができる、円の性質を理解する。 | 生徒の実情に合った問題をそれぞれ用意し、授業や補習、課題等を利用して解かせる。就職試験や入試問題を家庭学習課題にして、学習の動機付けにする。 | 7割の生徒が正解できたら、「3」 | 3 | 3 | B | ①習熟度の低い生徒に対しては、引き続きテスト前などに個別指導を行った。②模試の過去問等を意識した課題を作成した。生徒の学習意欲も高まっているようである。 |
| | | | | 適切な課題を与える。 | ほとんどの生徒が取り組んだら、「3」 | 3 | 3 | | |
| | 理科 | 進路実現を図るための学力を身につけさせるとともに、学習指導法の工夫と改善に努める | 生徒の学習状況や理解度を把握し、進路実現のために必要な学力を身につけさせるための授業の工夫と課題の活用を研究する。 | 適切な課題を与える。 | 学習習慣を身につけさせるとともに、学習内容の定着と進路に応じた実践力を育成する。また、提出された課題の内容を元に、理解度を把握し指導に活かす。課題消化率および理解度が9割以上なら「4」 課題消化率および理解度が7割以上なら「3」 | 3 | 3 | B | 課題消化率が悪いクラスもあった。1年生はほぼ100%提出させることができた。理解度に合わせた授業であったため計画していたよりも進捗がよかった。興味関心を持たせることができ活発な授業を展開することができた。 |
| | | | | 実験観察を積極的に行う。 | 効果的に実験を実施し、生徒の興味・関心を喚起し、学習内容の理解を高める。教科全体平均で半期に3回以上実施できたら「4」 2回以上実施できたら「3」 | 3 | 3 | | |
| | 保健体育科 | 授業や体育的行事において、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。 | 集団行動を定着させ、各領域で意欲的な活動を行う。 | 生徒が積極的に集団行動に取り組む。 | 体育委員を中心に生徒が主体的に活動し、集団行動の基本が定着しているか。 | 3 | 4 | B | ・中高合同体育祭では、それぞれの生徒が意欲的に責任をもって取り組み、集団のまとまりが見られた。・生涯スポーツを見通した授業作りにおいては、生徒一人一人は意欲的に活動ができているが、グループ学習やチーム練習を主体的に行える工夫が必要である。 |
| 生涯スポーツを見通した授業づくり。 | | | | 各領域において基礎基本を身につけ、グループで計画的に練習に取り組んでいるか。 | 3 | 3 | | | |
| 中高合同体育祭においてリーダーとしての態度を育む。 | | | | 中学生のよきリーダーとして、合同練習へ積極的に参加しているか。 | 4 | 4 | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 |
|----------|-----------------------|--|---|---|--|----|----|---|--|
| 学力の充実と向上 | 保健体育科 | 新体力テスト等を活用し、基礎体力の向上を目指す。 | 新体力テストを活用し自己の体力を把握し、日々の授業において基礎運動能力を高める。 | 新体力テストの実施と結果の活用。 | 新体力テストを5月までに実施し、結果の分析をさせる。 | 3 | 4 | B | ・授業の初めのサーキット運動は継続して実施し定着できた。・長座体前屈の定期的な測定は、途中からストレッチテスト（7種目）を学期に1回実施するように変更をした。今後もう少し生徒の意識が上がる方法の工夫が必要である。 |
| | | | | 柔軟性の定期測定 | 長座体前屈測定又はストレッチテストを2ヶ月に一回実施する。 | 3 | 3 | | |
| | | | | 個々の状況に応じた体力の向上。 | 授業初め、8分間運動を継続して実施する。 | 3 | 4 | | |
| | 芸術科 | 協同的な学びの実現 | 学び合う関係、学びの場として、お互いに教えあったり批評することができる雰囲気構築する。 | 少人数・小集団での活動の実践。 | 少人数・小集団による活動を取り入れ、生徒同士の学びあう関わりを学期に1度以上実践できれば「3」 | 3 | 3 | B | 成果：音楽Ⅰ、音楽Ⅱ、器楽、演奏研究それぞれで発表の機会を設けることができた。また、それぞれの発表をグループに分かれて行わせることで、少人数・小集団の活動を行うことができ、それぞれのグループで学びあいができているようだった。課題：各グループで分かれた時にサポートが必要な生徒が複数いる場合の指導方法についてより熟慮する必要がある。 |
| | | | | 「聴きあう」場の設定。 | 発表演奏などの機会を設定し、相互に聴きあい、相互評価を学期に1度以上実施できれば「3」 | 3 | 3 | | |
| | | 基礎学力の定着 | 読譜力の向上と音楽的基礎知識の定着。 | リズムテストを必要に応じて行う。 音楽的基礎知識の復習を行う。 | リズムテストを1カ月に1度以上行い、時間内に70%の合格なら「3」 楽典の復習テストを1ヶ月に1度以上行い、70%の合格なら「3」 | 2 | 2 | C | 成果：楽典の復習テストを楽典の筆記テストに含めて行うことができた。引き続き行うことで生徒の音楽的な基礎能力を高めていきたい。課題：リズムテストは楽典の練習に時間が費やされてしまい、行うことができなかった。次年度では生徒への課題として提示し、一週間に1つは行っていきたい。 |
| | 英語科 | 生徒の主体的音楽表現力育成 | 生徒に音楽芸術を身近に感じさせ、主体的、創造的な表現能力の育成を目指す。 | 様々なジャンルの音楽に触れる機会の計画。 | 鑑賞と表現の関連をもたせた授業を行うことができたなら「3」 | 2 | 3 | C | 成果：すべての教科において、1回以上、小集団での実技試験を行うことができた。次年度でも楽典の練習から実技試験まで過程を通して、生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばしていきたい。また、楽典の練習に入る前に、その曲を鑑賞する時間を設けたことで鑑賞と表現の関連をもたせた授業を行うことができた。課題：小集団で実技試験を行う場合の個々への評価をより明確にする必要性を感じた。 |
| | | | | 個別または小集団での実技試験の実施。 | 学期に1回以上、個別または小集団での実技試験を実施することができたなら「3」 | 3 | 3 | | |
| | 英語科 | 学習のつまづきを究明し、その対策を講じるとともに、学習指導方法の工夫と改善に努める。 | 授業力向上と教科指導の充実。生徒一人ひとりが英語を使う場面を増やす。 | 生徒が英語を使って話す機会の増加。 | 北松西CAN-DOリストに照らし合わせて、全てのクラスで定期的にスピーキング活動（スピーチ、インタビュー、リテリングなど）を取り入れる。年間2回以上パフォーマンステストを実施できれば「4」 | 3 | 4 | B | 県から依頼されている英会話テストを10月と12月の2回、全学年を対象に行った。1回目より2回目の方が全体的に結果もよく、また、意欲的に取り組む姿を見ることができた。ALTとのTTはできる限り行い、授業中の問いかけに対して積極的に発言する姿が見られた。しかし、個人差がまだ大きいので、きめ細かい指導を心がけていきたい。 |
| | | | | ALTとのTTにより英語に触れ合う機会を増やす。 | TT授業を週1回以上実施しかつ生徒の授業中の発言が授業の3分の1以上あれば「3」 | 3 | 3 | | |
| | 家庭科 | 家庭生活を営むために必要な能力を身につける | 生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。 | 保育実習の実践 | 授業開始前に予習や復習の確認を行う。9割の生徒が予習や復習を行ってれば「4」 | 3 | 4 | B | 予習・復習・課題・小テストに対する取り組みは全学年を通して良好であった。応用につながる基礎力を定着させるとともに、自分の能力に応じて自ら進んで学ぼうとする姿勢を育む指導を今後も心がけていきたい。また、小中とも連携した英語教育あり方についても考え行動に移していきたい。 |
| | | | | 実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実 | 確実に提出させる。9割以上の生徒が毎回確実に提出したら「3」 | 3 | 3 | | |
| 調理の工夫と実践 | | | | 毎時間合格に向けて努力することで、基礎力を付ける。合格する、または不合格でもやり直しを提出する生徒が8割を超えれば「3」 | 3 | 3 | | | |
| 家庭科 | 家庭生活を営むために必要な能力を身につける | 生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。 | 保育実習の実践 | 乳幼児ふれあい体感を通して、男女協力して家庭や地域の生活を創造するための知識と技術を習得させる。効果的な指導・体験実習ができれば「4」 | — | 4 | B | ①授業で製作していたものを完成させ、西高祭で展示をすることができた。②調理実習は10回以上実施することができた。調理検定の評価基準をもとに数値で評価することで、生徒が技術を客観的に判断でき、より意欲的に実習に臨むようになった。 | |
| | | | 実践的・体験的な学習活動と問題解決的な学習の充実 | 文化祭での作品展示を目標に作品製作を行う。最後まで作品を完成させることができれば「3」 | — | 3 | | | |
| 家庭科 | 家庭生活を営むために必要な能力を身につける | 生活に必要な知識と技術を習得させ、生活を創造する能力と実践的態度を育てる。 | 調理の工夫と実践 | 調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」 | 3 | 3 | B | ①授業で製作していたものを完成させ、西高祭で展示をすることができた。②調理実習は10回以上実施することができた。調理検定の評価基準をもとに数値で評価することで、生徒が技術を客観的に判断でき、より意欲的に実習に臨むようになった。 | |
| | | | 調理の工夫と実践 | 調理実習では年間10回以上を目標とする。安全に配慮し、効果的な調理実習ができれば「3」 | 3 | 3 | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 |
|---------------------|----------------------|---|--|--|--|----|----|---|--|
| 基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚 | 生徒指導部 | 基本的な生活習慣を身に付けさせる | 集団の秩序を守り、高校生として責任と規律ある生活態度の確立を目指す。 | 高校生さわやか運動（服装）を推進する。 | 指導されなくても自ら整える姿勢を養う。毎回の服装頭髪検査で8割以上が合格なら「3」 | 3 | 3 | B | ① 服装頭髪検査については年間を通して100%ではなかったが、高い合格率を保つことができた。5分前行動もよく守ることができている。② 北松西高校さわやか運動として6月と10月に風紀委員を中心にあいさつ運動を展開することができた。10月には挨拶運動だけでなく、自主的に校門・体育館周辺を掃除する姿も見られた。また、自転車運転のマナーについて注意を促すポスターの作成・掲示にも取り組んだ。 |
| | | | | 高校生さわやか運動（挨拶）を推進する。 | 風紀委員を中心に挨拶運動を実施。年に2回実施すれば「3」 | 3 | 3 | | |
| | | | | 時間の厳守。 | 指導されなくても規律ある行動ができるよう育てる。各行事5分前行動ができれば「3」 | 3 | 3 | | |
| | 生徒指導部 | 交通マナーの遵守を徹底させる | 自転車乗車マナーの向上。 | 自転車整備の徹底。 | 整備不良については早急に改善させる。年3回の自転車点検で合格が8割以上で「3」 | 3 | 3 | B | ① 駐輪場の使い方は年間を通してよかったため、点検を毎月行う必要性を感じなかった。そのため、3については来年度以降評価基準の内容を変更することを考慮したい。② 自転車の危険な乗り方については、集会等で定期的に話をして注意を促すと同時に、もし見かけたり報告があったりすればその度繰り返し指導していく。 |
| | | | | 全校集会などで自転車乗車マナーを指導する。 | 夜間無灯火・並走・傘差し運転の禁止。マナー指導が各学期に1回実施できれば「3」 | 3 | 3 | | |
| | | | | 駐輪場の整理整頓。 | 全車、駐輪場の車止めに停車させる。毎月の駐輪場点検が実施できれば「3」 | 2 | 2 | | |
| | 第1学年 | 基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度 | 礼節・容儀・環境美化の大切さを自覚させ、基本的な生活習慣の定着をはかる。 | 校則に準ずる容儀への心がけをもたせる。 | 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。9割の生徒が合格すれば「3」とする。 | 3 | 4 | B | この一年で、学校生活の基本が身についた。多少中だるみの時期はあったものの、指導によってすぐに改善することができた。次年度の課題は、この状態を維持しつつも、掃除の質を高めることである。大掃除の際には、指示がなければ時間を持って余す生徒が多く見られた。2年次では、必要なことを自分で見つけて行動できる人間になれるような指導をしていきたい。 |
| | | | | 挨拶を徹底させる。 | 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。日常的な場面においても8割以上の生徒が自主的に挨拶できたら「3」とする。 | 3 | 3 | | |
| | | | | 清掃活動への積極的な取り組みをうながす。 | 清掃活動に意欲的に取り組む。8割以上の生徒が取り組めば「3」とする。 | 3 | 3 | | |
| | 第2学年 | 集団の中の「個」としての積極的な行動 | 学級活動・部活動・生徒会・学校行事などへ積極的・意欲的に参加させ、協調性・自主自律の精神を養う。 | 学級活動への積極的な参加をうながす。 | ホームルーム活動に積極的に参加している。各係活動が日常的に機能していれば「3」とする。 | 3 | 3 | B | 真面目に積極的には取り組んでいるが、まだ指示がなければ動けなかったり、前例に倣うだけで満足してしまったりする生徒が多い。しかしそれは、学校生活をよくしようとする意識が低いからではなく、知識の欠如からくるものであると考える。次年度は、様々な折に多くの具体例を提供し、生徒に知る機会を与えることで、現状の改善を図りたい。 |
| | | | | 部活動への積極的な参加をうながす。 | 部活動に積極的に参加している。日常的に8割の生徒が活動していれば「3」とする。 | 3 | 3 | | |
| | | | | 学校行事への積極的な参加をうながす。 | 学校行事に積極的に参加し、各学年と協力している。協力的な姿勢が見られたら「3」とする。 | 3 | 3 | | |
| 第2学年 | 基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度 | 礼節・容儀・環境美化の大切さを自覚させ、基本的な生活習慣の定着を目指す。 | 端正な服装・頭髪への心がけをもたせる | 服装頭髪検査を定期考査毎に実施する。9割の生徒が合格すれば「3」 | 3 | 3 | B | ①服装頭髪検査はおおむね良好である。②挨拶に関しては普段からよくできている。特に最近は元気が良くなった。③清掃活動にはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。 | |
| | | | 挨拶の励行 | 授業の始業・終業時に100%の生徒が挨拶をする。日常的な場面においても8割以上の生徒が自ら挨拶できたら「3」 | 3 | 3 | | | |
| | | | 清掃活動への積極的な取り組みをうながす。 | 清掃活動に意欲的に取り組む。8割以上の生徒が取り組めば「3」 | 3 | 3 | | | |
| 第3学年 | 集団の中の「個」としての積極的な行動 | 学級活動・部活動・学校行事等への積極的な参加により、協調性・自主自律の態度を養わせる。 | 学級活動への積極的な参加 | ホームルーム活動に積極的に参加している。各係活動が日常的に機能していれば「3」 | 3 | 3 | B | ①学級の係の仕事については、自分の役割を理解し、責任もって行っている。②部活動に対してはほとんどの生徒が意欲的に取り組んでいる。③文化祭ではクラスで協力して劇を仕上げた。 | |
| | | | 部活動への積極的な参加 | 生徒が積極的に参加している。日常的に8割の生徒が活動していれば「3」 | 3 | 3 | | | |
| | | | 学校行事への積極的な参加 | 積極的に参加し各学年と協力している。協力的な姿勢が見られたら「3」 | 3 | 3 | | | |
| 第3学年 | 基本的な生活習慣および落ち着いた生活態度 | 基本的な生活習慣を身につけさせ、社会に対応できる人物の育成をめざす。 | あいさつの励行および場に応じた適切な言葉づかいを身に付けさせる。 | あいさつおよび場に応じた適切な言葉づかいができる生徒が80%以上であれば「3」 | 3 | 3 | B | ・服装検査はほぼ100%を達成できた。・場に応じた適切な言葉使い、丁寧な字を書くことなど学校に伝える間は継続して指導していきたい。 | |
| | | | 社会生活に対応できる容儀の指導を行う。 | 定期考査毎の服装頭髪検査で、95%以上の生徒が全ての検査項目を守っているなら「3」 | 3 | 3 | | | |
| 進路指導の充実 | 進路指導部 | 進路意識の向上・進路実現 | 将来の職業意識を持たせ、生徒の能力や適正に応じた進路意識の向上を目指す。 | 進路講演会の実施。 | 専門知識に長けた外部講師を招き進路希望に合わせた講演会を実施する。生徒の満足度が高ければ「4」 | 4 | 4 | A | ・進路講演会については、生徒たちの将来に役に立つものが多く満足度が高かった。・インターンシップにおいても、生徒たちの職業に対する意識が高まった。・進路検討会については、個に応じた議論ができ進路指導に生かされた。 |
| | | | 進路検討会の実施。 | 進路検討会・学力検討会の結果を基にそれぞれの生徒に適切な進路指導ができれば「4」 | - | 4 | | | |
| | | | インターンシップの実施。 | 積極的にインターンシップに参加させ社会性や職業観を養う。生徒の満足度が高ければ「4」 | - | 4 | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 | |
|---------------|-------|---------------------|---|---|--|--|--|----|---|---|
| 進路指導の充実 | 進路指導部 | 学力の向上 | 計画的・継続的な学習指導を確立し、学力の向上を図る。 | 補習に積極的に取り組ませる。 | 怠惰による遅刻・欠席者がいなければ「4」、全生徒に占める遅刻・欠席者が5%増えることに評価を下げる。 | 4 | 3 | B | ・補習の遅刻・欠席者は全体の5%弱であった。体調不良者の場合を除くとほぼ全員が出席できた。・模試については概ね計画的にできた。・十分な学力がある生徒が少ないため、課題の出し方など今後検討する必要がある。 | |
| | | | | 模試を有効に利用する。 | 模試を計画通りに実施し、事前事後の指導を徹底する。過去問や本試験の解説がなされていれば「4」 | 4 | 4 | | | |
| | | | | 自主学習力を育てる。 | 家庭学習や学習会等を通して自主学習力を育てる。課題以外での自発的な学習が半数以上の生徒にみられれば「4」 | 4 | 3 | | | |
| 小中高一貫教育の充実 | 教務部 | 小中高一貫教育の内容検証と改善 | 小中高一貫教育の研究・活動の充実を図り、その教育方針の達成を目指す。 | 小中高一貫教育に関する会議日を設定し、校種間の調整を図る。 | 毎月1度「小中高教務部会」を設定でき、各々の行事等が円滑に行えれば「3」 | 3 | 3 | B | ①前期に引き続き毎月小中高教務主任会を開き、行事予定の確認・調整を行った。小中合同ロードレースと高校駅伝大会の実施時期や実施形態など、小中高一貫教育関係行事の検討事項も多いので、早急に検討を進めていきたい。②オープンスクールは7月に実施し、事後アンケートの結果、ほぼ全員の生徒と保護者の評価は良好であった。 | |
| | | | | オープンスクールや入試説明会を実施する。 | 中学校・中学生・保護者に本校の教育方針等を伝えることができれば「3」 | - | 3 | | | |
| | 第3学年 | 学校行事におけるリーダーシップの発揮 | 最高学年としての自覚を促し、学校行事においてリーダーシップを発揮させる。 | 学校行事や部活動を通して、リーダーシップの発揮を促す。 | 行事に積極的に参加し、下級生に対してリーダーシップを発揮できたと、教員の8割以上が判断すれば「3」 | 4 | 4 | A | ・体育祭、西高祭などにおいて上手に役割分担をして行動する姿は後輩達へのお手本となった。 | |
| | | | | 小中高一貫教育の内容の工夫を図り、その成果を検証し、改善に努める | 小中高12年間を見通した系統的・継続的な教育を推進する。 | 小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。 | 小中高12年間の理科教育で実施する実験リストを作成し、情報を共有する。(今年度は化学) 実験リストの実験について研究協議できたら「4」 実験リストを作成し共有できたら「3」 | 3 | 3 | B |
| | 家庭科 | 郷土学習を進め、郷土を愛する心を育てる | 地域保護者との連携を深め、郷土について学習する機会を作ることにより、郷土についての知識と愛着を深める。 | 小中高の職員が協議し系統的な理科教育の流れを確立する。 | 公開授業の実施。 | 小中高の教員で授業内容の協議を行い、公開(研究)授業後に授業研究を行う。2人とも公開(研究)授業を実施したら「4」 1人が公開(研究)授業を実施したら「3」 | 3 | 4 | C | |
| | | | | 郷土料理教室の実施。 | 1回の調理実習で、小値賀産の食材を2種類以上使用できたら「3」 | 3 | 2 | | | |
| 小中高間での連携の活発化 | | | | 共同の授業研究を行い、小中高の連携を図って段階的な学習内容や行事を検討する。 | 共同の授業研究 | 1時間以上の授業研究会を3回開催することができたら「3」 | - | 2 | | |
| その他 | 生徒指導部 | 学校、保護者、地域社会との連携 | 保護者・地域社会との連携により、学校と一体になって生徒の健全な育成を目指す。 | 保護者・地域との連携。 | 情報を共有し、生徒の健全育成に努める。生活補導会議を年に1回実施し、決定事項を確実に伝達できれば「3」 | 3 | 3 | B | ① 服装頭髪検査については年間を通して高い合格率を保つことができた。5分前行動もよく守ることができている。② 北松西高校さわやか運動として6月と10月に風紀委員を中心にあいさつ運動を展開することができた。10月には挨拶運動だけでなく、自主的に校門の周りを掃除する姿も見られた。また、自転車運転のマナーについて注意を促すポスターの作成・掲示にも取り組んだ。 | |
| | | | 職員間の連携。 | 問題行動が起きた場合は素早く情報を共有する場を設定する。機に応じて情報交換ができれば「3」 | 3 | 3 | | | | |
| | | | 携帯電話の危険性の啓発。 | 携帯電話やネットを正しく利用できるように保護者と協力体制を築く。保護者への説明を年に1回できれば「3」 | 3 | 3 | | | | |
| | 生徒会指導 | 生徒の自治的活動の活性化 | 活気ある学校づくりに、生徒一人ひとりが主体性を持って取り組む精神を養う。 | 学校行事への積極的参加。 | 各行事で生徒が主体的に企画・運営に関わる生徒主体となるよう生徒会の活動を支援できれば「3」 | 3 | 3 | B | ・西高祭や球技大会などさまざまな行事において、生徒一人一人が活躍する場を持てるように必要な手助けを行うことができた。生徒総会においても各学年の生徒達が意見を出し合い、有意義な機会になったと思う。その一方で、少人数であるために生徒一人の仕事量が増えてきているので、企画を再構成する必要性もある。 | |
| 各専門委員会活動の活性化。 | | | | 各委員会で努力目標を設定し、それを達成する。問題点の把握とその改善に向けて努力する姿勢を養う。 | 3 | 3 | | | | |

| 評価項目 | 担当 | 具体的項目 | 目標 | 具体的方策 | 評価基準 | 前期 | 後期 | 総合 | 成果と課題後期 |
|----------------|--|--------------|--------------------------------------|------------------------------|--|----|----|----|---|
| その他 | 生徒会指導部 | 部活動の充実のための支援 | 体育部・文化部が充実した活動ができるよう、積極的に支援する。 | 部活動全員加入。心身共に成長できるよう支援する。 | 全校生徒が部活動に所属すれば 「3」 | 3 | 3 | B | ・部活動への取り組みはよい。顧問間の情報交換もこまめに行われている。前期に挙げた旅費については、他校の規定と比較してみても、一律に決めるのは難しいため、その時に応じて議論を重ねていく必要があると考えられる。 |
| | | | | 部顧問会の実施。情報交換および部活動規定の見直しを行う。 | 部顧問会を年に1回実施できれば 「3」 | 3 | 3 | | |
| | 公民科 | 公民的資質の育成 | 知識の定着とともに、自らが生きる現代社会について思考・表現する力を養う。 | 授業の内容に合わせた最近のニュースを取り上げる。 | 月4回以上・・・4、月3回・・・3 月2回・・・2、月1回以下・・・1 | 4 | 3 | B | 後期の3年生の現代社会はセンター試験対策が主であり、前期のようにニュースの取り上げ等に多くの時間を割くことができなかった。来年度も前期のように積極的に言語活動に取り組んでいきたい。 |
| 小テストやミニレポートの実施 | 毎回小テストやミニレポートを実施し、試験の点数およびレポートの評価が6割を越えれば3 | 3 | 3 | | | | | | |